



8番Hグリーン

20年にクラブハウスリニューアル

その 270

クラブアップ21

また行きたくなるゴルフコース 上総モナークカントリークラブ

地域・ゴルフ振興に注力、練習施設充実させ「モナーク文庫」も話題



櫻井大輔 キャディマスター兼
企画運営担当

1984年11月14日に開場した上総モナークCC（18H、千葉県君津市）は、「帝王」として世界にその名を轟かせたプロゴルフアーのジャック・ニクラウス氏がコースを設計。現役の70年代に設計を交渉していたそうで、千葉県内初の設計コースとしてオープンした。ペント1グリーン（ペンクロス）で、自然の地形と人工的な起伏を取り入れた丘陵コースだ。

ゴルフ場のメンバー数は534人で、メンバーの平均年齢は62・7歳。22年度の来場者数は4万1786人。来場者比率は、女性来場者比率が約18%、県内は25%、県外が75%（主に東京都、神奈川県）となっている。

同CCは、20年に2～9月までかけてクラブハウスの大規模改装を行い、同年10月にリニューアル。印象的なデザインの各ホールやコ

ース状態の良さに加え、ゴルフ振興策や独自の「モナーク文庫」など様々な取り組みでも話題となり、評価が高まっている。

練習施設「Tea-up Lab」オープン、ゴルフ前の練習エリアも人気

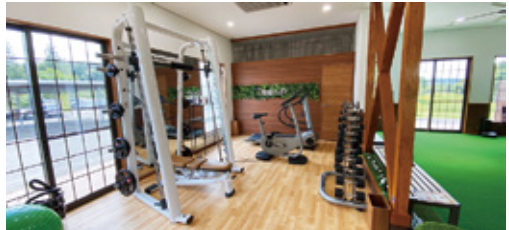
上総モナークCCは、「また行きたくなるゴルフコース」として、22年9月に練習施設「Tea-up Lab」をオープンした。ゴルフアートを総合的にサポートする施設で、「TRACEMAN」や「GCQuad」によるスイング解析をはじめ、トレーニングやストレッチにも利用できる。

同CCで企画運営も担当する櫻井大輔キャディマスター（日本プロゴルフ協会ティーチングプロA級）は、「他のコースには無い話題のあるものを作ろうと考えました。過去に米国に滞在していた際に、様々なゴルフ場や練習場施設を見てきたのですが、米国にはゴルフ場1ホール分の広さを持つ練習場や広いアプローチエリア・練習施設があるコースがあったので、環境の違いを感じました。上総モナークでも取り入れたらどうかと提案して造りました」と説明してい

る。「Tee-up Lab」では、レッスンの役立つ練習道具を取り揃えている。ストレッチエリアは誰でも利用が可能で、一度訪れた利用者は、次回から早めに施設に来る方が多いとのこと。レッスンの貸し切り利用や屋内なので雨の日にレッスン利用してランチを食べて帰るなど、新しい体験に徐々に継続する来場者も増えているようだ。「TRACK MAN」・「GCQuad」測定はプレー前後のみ利用できる。10分単位でメンバーが1100円、ビジターが1650円（ワンポイントレッスンは追加550円）。レッスンは



練習施設「Tee-up Lab」



ゴルフに役立つ練習道具を取り揃えている



ショートゲームエリアはスタート前の練習に大人気

（プレー後またはレッスンのみの予約制）は、20分でメンバー3300円、ビジター4400円、60分でメンバーが8800円、ビジターは1万1000円。レッスンのみ利用者でも、2時間ショートゲームエリア利用やバター練習が可能となる。設計者の誕生日（1月21日）に参加費無料のニアピン大会（シミュレーター利用）をサプライズ開催したり、今年2月にクラブメーカーと協力して、スタッフ・学生ゴルファーやティーチングプロなどを対象にボールエデュケーショ

ン&ボールフイッティングを初開催、様々な場面で活用している。先に紹介したパッティンググリーン横のショートゲームエリアは「Tee-up Lab」以上に人気という。元々練習場が55ヤードと小さく増築も検討したが、敷地面積の理由で断念。林エリアを切つて土を運び4年前に新設し、徐々に改修してきた。スタート前にアプローチ・バンカー練習が無料であるため、朝様子を見ると何十人も利用しているという。ティーチングプロは、同エリアとコースでのレッスンを合わせて活用しているケースもあるようだ。

みらい応援カップ、ゴルフ場体験会の取組み、地元振興で産直品販売

一方で同CCCは、以前からプロゴルファーや研修生を支援するミニツアーを開催し、協賛している。昨年8月には、ゴルフを通じてSDGsに寄与することを目的に「みらい応援カップ」を初めて開催、BSチャンネルでテレビ放映された。女子プロペアマッチとユニア2名1組のプロアマチャリティで、女子プロ支援のみでなく、小学校4〜6年生40名が参加し、目土の仕方やバンカーの均し方などをプロからレクチャーを受けながら純粋にゴルフを楽しんだという。集まった基金は日本財団、みらいこどもプロジェクトや関東ゴルフ連盟などに寄付した。今後、ユニアの参加人数を増やすことも検討しており、今年は秋に開催される。また同CCCでは、近隣のコースとともに地元の高校生に対して「ゴルフ場体験会」を実施している。2018年頃から就職担当として、地元の高校を回っている櫻井氏は、「当ゴルフ場でもそうで



「みらい応援カップ」チャリティトーナメント参加者全員で記念撮影

すが、ゴルフ場を見たことがなく、ゴルフが知らない方がゴルフ場に就職するケースが多いです。そこで地元の学校に相談したところ、複数の高校の先生が企画を

してくれて、近隣のコースに協力をしていただき、3年前から地元の高校2年生全員を対象に「ゴルフ場体験」を実施しています。館内の案内やコースをカートで回って来場者のプレーを間近で見ってもらうから、最後にバッテリーやアイアンでボールを打つ体験をしてもらい



ゴルフ場体験会でバッテリー体験する高校生



プレーだけでなく目土のマナーなども教わる



「愛彩畑」のトマトジュースは一押し

ます。昨年は当コースで10名近くの生徒を受け入れました。木更津市、君津市地域の高校を中心に先生方がまとめています。また新高校3年生に対して、ゴルフ場と福祉関係が集まる企業説明会を開いていたできるようになりました。「ゴルフ場体験」により、ゴルフ場を就職先の一つとして考えてもらえますし、将来的にどこかでゴルフを楽しんでもらえたらと思います（櫻井キャディマスター）

地域との結びつきはジュニア、学生だけに限らず、同CCでは、クラブハウスリニューアル後の2年前から地元の直売所「愛彩畑」の製品販売も始めた。

【愛彩畑】は、3年前に同CCか

ら車で10分の場所にオーブンし、トマトをはじめ、イチゴや季節の野菜を販売している。そこで同販売所に相談し、ハウス内シヨップにトマトジュース、イチゴジャム、トマトカレードなどを置いたところ、メンバーがファンになり、帰りに直売所に寄ることも多いそうだ。君津市に養鶏場もあり、地元の卵屋2社の卵を使用、お土産やコンベの商品、レストランメニューに使用している。地元食材を多用したレストランでは、テレビで話題となった海鮮丼などは人気が高く、数量限定なため品切れとなることも多いという。

ティーイングエリア拡幅やキャピラリー工法でのバンカー排水改善

同ゴルフ場は県内では比較的高（約150メートル）が高く、夏場の夕方には海風が届き、朝晩は少し気温が低い。ため、気候に合わせた芝の管理に取り組んでいる。コース管理スタッフは10名で、東武緑地(株)に委託。毎月ミーティングを行い、キャディや来場者の意見を聞き入れながら、キーパー、サブキーパーと話をしコース管



14番ティーイングエリア

入れ替えや10個のホールにてカート道路をFWサイドに新設。プレーゾーンにより近く、楽にプレーができるようになったという声が多い。キャディ付の場合は、人気があるカートのFW乗入れも行っている。

Par 3を中心にティーイングエリアの拡幅や新設、それにレイアウトの一新を毎年行っている。来冬からは各ティの整地をする計画だ。また、コブが多いコースなので、そのコブを活かしながらパンパスグラスを植えて景観と戦略性を高めた。花のなる木が少ないため、今後は桜やモミジなどを植える検討もしている。散水は、井戸水を汲み上げて利

理の方針を決めている。

7年程前から、コースコンディションを更にアップしていくため、乗用カートの自走式からリモコン式への

